

東海村農業振興計画の概要

【策定の趣旨】

東海村の農業は、農業者の高齢化、担い手不足、米価下落による収益の低下、市街地のスプロール化による生産環境の変化など課題が山積しています。

東海村では、政策の4本柱の一つとして、農業政策の展開をしてきましたが、必ずしも本村における農業の将来を見据えた長期的な視野に立った支援とはいえませんでした。この振興計画は、今後10年を目標に本村の農業の将来像を描き、基本的な指針を示す計画を策定します。

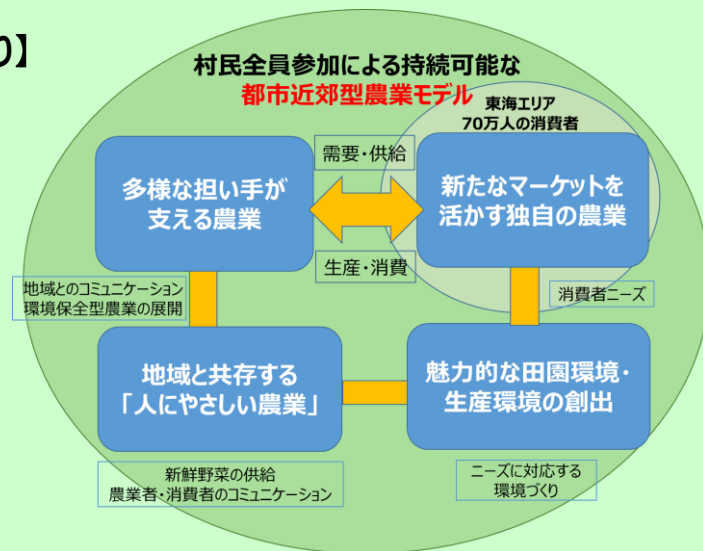
【課題の整理と対応】

東海村の農業に係る課題について、主に4つの視点から整理します。

① 新たな担い手の育成・確保 ・担い手の不足、高齢化により、経営規模縮小、離農の意向が強い ・集団化、組織化が進んでいない等	② 農業経営の確立・安定化 ・村の基幹作物である干しいものを除き、東海村の特産開発が進んでいない ・地産地消への取り組みが期待されている等
③ 農業と住環境との共存 ・畑地と隣接する住宅地の住民からの砂塵対策への要望が強い ・混住化による生産環境の変化等	④ 農地保全と生産環境の整備 ・農地集積が進んでいない ・担い手不足から耕作放棄地の増大が懸念される等

【東海村農業の目指す姿と仕組みづくり】

計画期間は、概ね10年間（平成28年度から平成37年度）としています。目指す将来像である4つの柱は、農業者のみならず一般住民の参画や協力を意識した内容となっています。4つの柱それぞれの実現が、相互作用を及ぼしながら、東海村農業を発展させていく関係性を「村民全員参加による持続可能な都市近郊型農業モデル」として提示します。



I. 多様な担い手が支える農業

～農業を始めるきっかけづくりから農業のリーダーを生み出す仕組みづくり～

〔キーワード〕小規模な担い手、雇用労働、援農、アクティブシニア、女性、新規就農、後継者就農、集約的な畑作、自立的家族経営、集落営農、労働粗放的な畑作、土地利用型農業、農業公社、担い手の組織化

今後の東海村農業にとって、労働力の確保が喫緊の課題となります。定年退職したアクティブシニアや女性などの農業参画が期待されます。一方、村内外からの新たな担い手の就農も期待されます。こうした多様な担い手を育成するための仕組みづくりを行います。

- ★定年退職者・高齢者・主婦等の就農促進
- ★自立的な家族経営の育成・確保
- ★土地利用型農業の担い手の育成・確保
- ★担い手の組織化

II. 新たなマーケットを活かす独自の農業

～東海エリア約70万人の消費者をターゲットにした新たな販売・消費の仕組みづくり～

〔キーワード〕地産地消、ブランド化、差別化、特産品開発、学校給食、村内飲食店、大型小売店、インショップ、朝市、需要に応じた農産物供給体制、地場産レストラン、6次産業化、耕畜連携、飼料米、飼料作物

東海村の農業は、多くの小規模農家によって支えられています。この特性を生かすため、地産地消型の農業を目指す必要があります。そこで、東海村とその周辺エリア70万人の消費者を新たなマーケットのターゲットにした地産地消型の販売・消費の仕組みを構築します。

- ★ブランド化・特産品開発
- ★地産地消を中心とした需要創出・販路拡大
- ★耕畜連携による需要創出・生産拡大（水田における飼料米生産、畑におけるデントコーンの生産）

III. 地域と共存する「人にやさしい」農業

～地域とのコミュニケーションを深め、より自発的な農業活動と農業・農地が持つ多面的機能を発揮する仕組みづくり～

〔キーワード〕農業者と一般住民の交流促進、食育、農地のレクリエーション利用、交流イベント、一般住民の就農・援農支援、多面的機能、住民の自発的活動、砂塵対策、カバークロープ、環境保全型農業

生産者と消費者が課題解決に向けて相互にコミュニケーションを図り、農業・農地が持つ多面的機能を発揮して、農業が地域と共存しうる都市型「人にやさしい農業」の実現を目指します。

- ★農業者と一般住民の相互理解の促進
- ★都市空間と農業空間の共存

IV. 魅力的な田園環境・生産環境の創出

～市街化のスプロール化を抑制する市街地と農地との共存を目指す仕組みづくり～

〔キーワード〕土地利用計画、農地転用抑制、ゾーニング、条件不利農地対策、農地のレクリエーション的利用、多面的機能直接支払、非農家参画、環境・生態系保全、農地集積、基盤整備、鳥獣害対策

住宅地需要の増大から、畑作地を中心に農地転用と市街化がスプロール的に進みました。こうした地域では、農地と宅地がパッチワーク状に存在していますが、今後土地利用計画による農地の計画的保全を図り、魅力的な田園環境・生産環境を創出します。

- ★土地利用計画による農地の計画的保全
- ★生産条件が不利な農地の活用と保全
- ★農地集積、基盤整備等による生産基盤の確立

【計画の進行管理】

計画の推進については、第5次総合計画の趣旨を生かしつつ、後期計画との整合をはかります。

今後、農業振興計画を「短期」「中長期」に分類し、将来構想の実現に向けて、計画的に進行管理を行う予定です。

